



バンコク路線バスの急速なEV化

北陸銀行 国際部
バンコク駐在員事務所
所長 湧川 裕明

1. はじめに

バンコクの路線バスは、旅行者や外国人にとっては馴染みが薄いかもかもしれませんが、運賃が安く、庶民の足として利用されています。通称「赤バス」と呼ばれている路線バスはエアコンは付いていないものの、運賃は利用距離に関わらず一律8バーツ(約32円)と格安です。一方、エアコン付きのバスは距離によって料金が変わり、最も利用距離が長い運賃で25バーツ(約100円)です。今回ご紹介しますエアコン付きの電気自動車(EV)バスも同じ料金体系となっており、距離に応じて最大25バーツで乗車することができます。バスに乗り込むと車掌が運賃を回収に来てくれるシステムです。

2024年3月の当地報道によると、バンコク市内の路線バスを運営するバンコク大量輸送公社(BMTA)は、EVバスを3,390台調達する計画です。30年間以上使用しているディーゼルエンジン車を順次交換し、エアコンがないバスの運行は2025年に全面停止する方針とのことです。

EV化が急速に進むタイにおけるバンコク路線バスの状況についてご紹介します。



【バンコク市内を走るEVバス(タイ国内メーカー製)】(バンコク事務所撮影)

2. タイのEV推進の現状

タイでは、2030年までに国内の自動車生産台数のうち30%をEV車とする政策目標を掲げており、EV生産に関する各種奨励策を出しています。タイ国内に拠点を有する自動車メーカーが、国内でEVを生産することを条件に、EVの輸入関税や物品税率を引き下げ、またEVの販売に補助金を交付しています。BYDをはじめとする中国勢がこの奨励策を活用して、相次いでタイにEV生産拠点を立ち上げ始めており、中国勢が輸入するEVはこれ

らのメリットを活かして急速にシェアを伸ばしています。2024年1月単月では、乗用車部門の新車販売台数で、初めてBYDがトヨタを抜いて販売シェア1位となったことは、筆者にとっては衝撃でしたが、最近のEV化、中国勢の勢いが数字で示された結果であると言えます。

3. 路線バスへのEV導入

2022年から路線バスにEVバスが本格導入され、公営・私営ともEV化が進んでいます。2023年8月時点の話では、バンコク都庁は路線バスの完全EV化を目指して2024年7月中に全路線でEVバス以外のバスを廃止し、最終的には民間企業の追加導入を合わせてバンコク市内に7,000台のEVバスを走らせる予定としていましたが、冒頭に述べた報道からしますと、計画は後ずれしているように思われます。

それでも初導入の2022年から数えてわずか3年でEV化を達成しようとするスピード感には、驚きを感じます。

4. おわりに

タイの自動車業界は外資（少し前までは日本勢）の独壇場と言えますが、EVバスとなると、グリーンエネルギー分野で急成長したタイ企業「エナジーアブソリュート社」が手掛けています（CEOのソムポッテ氏はタイのイーロン・マスクと称されています）。ちなみに、先述の「赤バス」は日系メーカーが採用されていました。

路線バスは公共性が高く、政府の意向をすぐに反映しやすい領域とは思いますが、タイの自動車業界で起こっていることは、日本勢のタイでの今後の存在感について、考えさせられることが多いと感じます。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
((株)人材情報センター内)
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp